視力検査を行うにあたって保護者の方へ

　子どもの視力は生まれてから発達し、就学時までに、ほぼ完成します。ところが強い屈折異常（近視・遠視・乱視）、屈折度の左右差、斜視などがあると視機能が正常に発達せず、眼鏡を使用しても一生涯視力がでない「弱視」になってしまいます。

　弱視は、小学校に入学してから発見されても、あまり良い治療効果は期待できません。

　発見が早ければ治療効果は高くなります。眼科受診をすすめられた場合は、速やかに眼科を受診してください。

【事前に次のことをお願いします】

 1. 問診票（本紙下段）への記入

下記の問診票で該当する項目がありましたら、チェックをしてください。

該当する項目がなければそのままでかまいません。

 2. 視力検査の練習

検査はランドルト環という黒い円の切れ目の方向を指でさして答えてもらうという方法で行います。事前に練習用のランドルト環視標をお渡ししますので、ご家庭で練習をしておいてください。上下左右を指で示すことができれば十分です。この練習をしておかないと検査のやり方が理解できないために視力が悪いと判断されることがあります。

問診票の提出は　　　 月 　　　日（　　　 ）までにお願いします。

【問診票】

 　　年　　組　名 前

該当する項目がありましたら、チェックをしてください。

該当する項目がなければそのままでかまいません。

|  |
| --- |
| □頭を左右どちらかに傾ける、顔を左右どちらかに回す、あごを上(下)げる。 |
| □目(視線)が内側に寄っている。 | □目(視線)が外側に外れている。 |
| □目を細めて見る。 | □極端に近づいて見ようとする。 |
| □上目づかい(下目づかい)でものを見る。 | □まぶたの形(大きさ)に左右差がある。 |
| □屋外に出ると非常にまぶしがる・嫌がる。 | □瞳の中央(奥の方)が白く光る。 |